吉野川市山川町の民家

民家班（日本建築学会四国支部徳島支所）

小田麻梨乃[*1]　鎌倉　和敏[*2]　喜多　順三[*3]　佐藤　弘美[*4]　末国　明宏[*5]　高田　哲生[*6]
谷中　俊裕[*7]　田村　栄二[*8]　那須　幸男[*9]　林　茂樹[*10]　廣田　和正[*11]　福田　頼人[*12]
龍野　壮平[*1]

要旨：山間部，段丘部，平野部の３つの地形に分かれる山川町において，民家がどのような特徴を持っているのか，またどのように変遷してきたのかを明らかにするために，その地域の特色を色濃く持つ茅葺き民家を対象に調査を行った。今回の調査では，これまでの既往研究をもとに，山川町内の138棟の茅葺き民家を悉皆的に確認すると共に，主要な民家11棟について詳細調査を行った。その結果，屋敷構えや建物規模，主屋の方位，勝手（土間の位置）などについて，それぞれ地形により特徴があることがわかった。また，間取りは町内全域で四間取が支配的であったが，座敷３室が矩折（かねお）りに配置された鍵座敷型（かぎざしきがた）が存在することや，県内山間部民家を代表する間取りである中（なか）ネマ三（みま）間取（どり）も過去に存在していたことなどが明らかになった。

キーワード：茅葺き民家，中ネマ三間取，鍵座敷，ヤマト天井，叉首構造

１．はじめに

山川町は吉野川南岸中流域に位置する。地形は，標高1,122mの高越山を含む山間部（**図１**），川田川沿いに拡がる段丘部，それから吉野川と川田川の合流によってできた平野部（**図２**）の３つの地域に分けることができる。このような山川町において，民家はどのような特徴を持っているのか，またどのように変遷してきたのかを明らかにするために，その地域の特徴を色濃く持つ茅葺き民家を対象に調査を行った。山川町の民家についての既往研究には，昭和48年に徳島県教育委員会が全県を対象に実施した民家緊急調査がある。その報告書である「阿波の民家」には，山川町の４棟の民家が報告されている。また，阿波のまちなみ研究会が，平成13年に皆瀬（かいぜ）にある元庄屋屋敷を調査，平成21年には山川町の茅葺

図１　山間部遠景

図２　平野部・段丘部遠景

＊1　徳島大学大学院　＊2　鎌倉建築設計事務所　＊3　空間計画研究所　＊4　徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部　＊5　徳島大学工学部建設工学科
＊6　高田建築設計　＊7　阿南高専　＊8　㈳徳島県建築士会　＊9　那須建築工房　＊10　㈱林建築事務所　＊11　㈱大林組　＊12　くすの木建築研究所

き民家について悉皆的調査を行い，138棟の茅葺き民家を確認している。今回の調査では，それらの研究成果をもとに，山川町内の茅葺き民家を悉皆的に確認すると共に，主要な民家11棟について詳細な調査を行った。

2．吉野川市山川町の民家の概要

山川町内の茅葺き民家の分布図を**図3**に，その調査データを**表1**に示す。

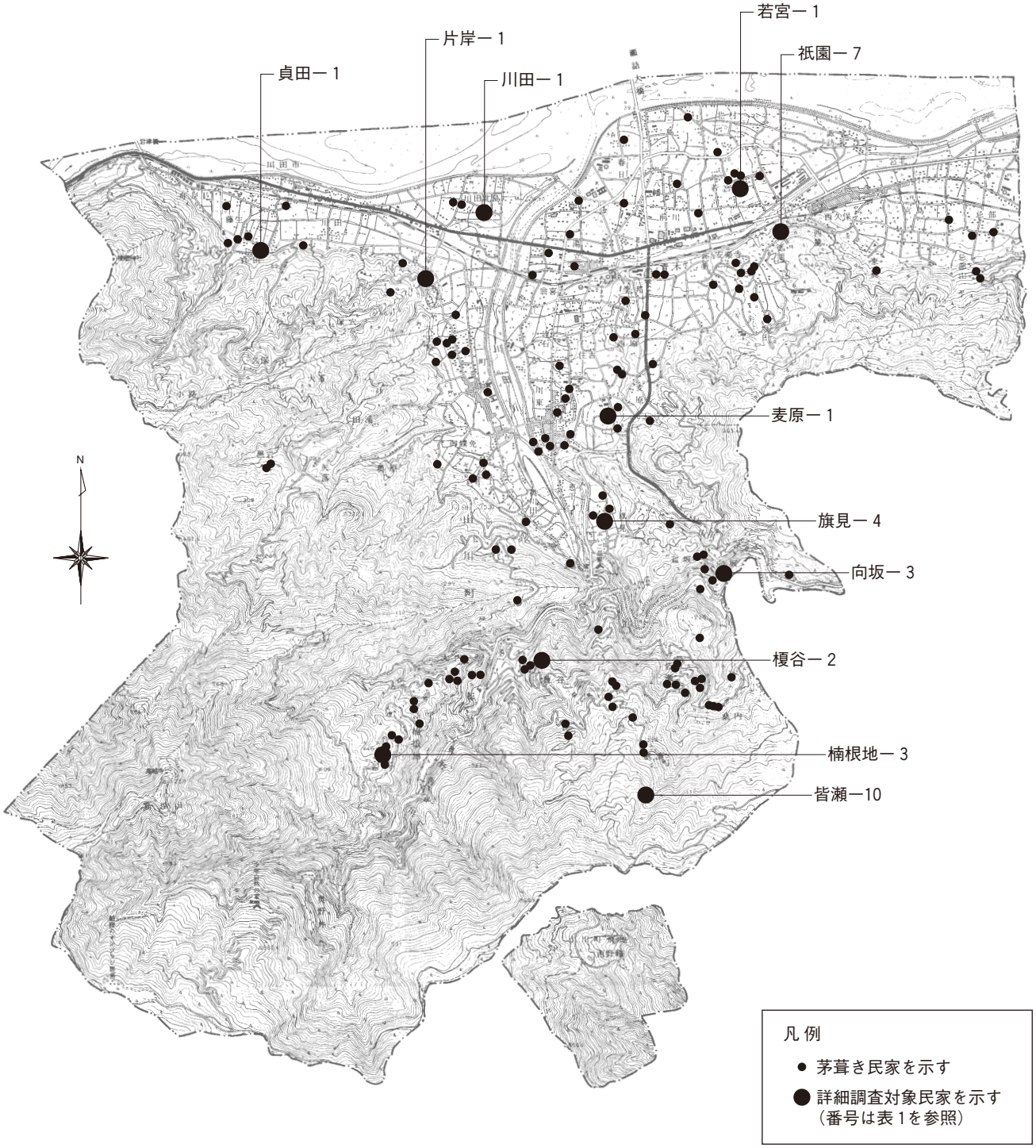

図3　調査民家分布図

表１　吉野川市山川町の茅葺き民家　調査データ　一覧表

所在地	番号	地形	上　屋	下　屋	間口規模	勝手	玄関	主屋方位	間取り	ヒアリングなど
榎谷	1	山間部	トタン(赤)	オブタ	7.0*	左	なし	西	―	
榎谷	2	山間部	トタン(赤)	四方	5.5*	左	なし	西	元中ネマ三間取	詳細調査民家、享保13年築、元葺下し、山茅、5尺間(梁間)
榎谷	3	山間部	トタン(白)	四方	5.0*	右	なし	南西	四間取	明治37年に建替、元西向き、ヤマト天井
榎谷	4	山間部	トタン(赤)	四方	6.0*	左	なし	東	―	
榎谷	5	山間部	トタン(赤)	四方	5.0*	左	なし	東	二間取	築200年程、元二間取、山茅・麦藁
榎谷	6	山間部	トタン(赤)	四方	6.0*	左	なし	東	―	
榎谷	7	山間部	トタン(赤)	オブタ	―	―	―	東	―	
榎谷	8	山間部	トタン(赤)	四方	6.5*	左	なし	東	―	
榎谷	11	山間部	トタン(青)	四方	5.5*	左	なし	東	四間取	築200年程、山茅
榎谷	12	山間部	トタン(赤)	四方	5.5*	左	なし	東	―	
楠根地	1	山間部	トタン(赤)	四方	6.0*	左	なし	東	―	
楠根地	2	山間部	トタン(赤)	四方	6.0*	右	なし	東	―	
楠根地	3	山間部	トタン(緑)	四方	6.0*	右	なし	東	四間取	詳細調査民家、築250年程、ヤマト天井、差鴨居
楠根地	4	山間部	トタン(赤)	オブタ	6.0*	右	なし	東	―	
楠根地	5	山間部	トタン(赤)	葺下し	5.0*	右	なし	東	―	
楠根地	6	山間部	トタン(赤)	四方	6.25*	右	なし	東	―	
楠根地	7	山間部	トタン(水)	四方	5.5*	左	なし	南	四間取	築100年程
楠根地	8	山間部	トタン(赤)	四方	6.0*	左	なし	南	―	
大内	1	山間部	トタン(銀)	四方	7.0*	左	なし	南	―	
大内	2	山間部	トタン(赤)	四方	6.5*	右	なし	東	四間取	築100年程、山茅
大内	3	山間部	トタン(赤)	四方	8.0弱*	右	なし	南東	―	
大内	4	山間部	トタン(赤)	四方	6.0*	左	なし	東	―	
大内	5	山間部	トタン(銀)	四方	4.5*	左	なし	南	―	
大内	6	山間部	トタン(赤)	四方	5.75*	右	なし	東	―	
大内	7	山間部	トタン(赤)	四方	―	右	なし	東	―	
向坂	1	山間部	トタン(赤)	四方	6.5*	右	なし	南東	四間取	築150年程、山茅
向坂	2	山間部	トタン(赤)	四方	6.0*	左	なし	南東	四間取	築70年程、焼普請、麦藁
向坂	3	山間部	トタン(赤)	オブタ	6.0*	左	有	南	四間取	詳細調査民家、文政10年築、山茅・麦藁、ヤマト天井
向坂	4	山間部	トタン(黒)	四方	6.0*	左	なし	南東	四間取	
向坂	5	山間部	トタン(赤)	四方	6.5*	左	有	南東	鍵座敷六間取	阿波のまちなみ研究会調査(平成11年)
向坂	6	山間部	トタン(赤)	四方	6.0*	左	なし	南	―	
桑内	1	山間部	トタン(赤)	四方	4.5*	左	なし	西	―	
桑内	2	山間部	トタン(赤)	四方	5.5*	左	なし	東	―	
桑内	3	山間部	トタン(赤)	四方	6.0*	右	なし	西	―	
桑内	4	山間部	トタン(黒)	四方	5.5*	左	なし	東	―	
皆瀬	1	山間部	トタン(銀)	四方	6.0*	左	なし	東	四間取	築100年以上、山茅・麦藁
皆瀬	2	山間部	トタン(赤)	オブタ	6.0*	左	なし	南東	―	
皆瀬	3	山間部	トタン(銀)	四方	6.5*	右	なし	南東	―	
皆瀬	4	山間部	トタン(赤)	四方	―	右	なし	東	四間取	大正11年築、焼普請、山茅
皆瀬	5	山間部	トタン(銀)	四方	7.0*	右	なし	東	―	
皆瀬	6	山間部	トタン(赤)	四方	7.0*	左	なし	東	―	
皆瀬	7	山間部	トタン(赤)	四方	6.0*	左	なし	東	四間取	築100年以上、山茅・麦藁
皆瀬	8	山間部	スレート	四方	6.5*	左	なし	東	―	
皆瀬	9	山間部	トタン(赤)	オブタ	4.5*	左	なし	東	四間取	昭和14年築、山茅・麦藁
皆瀬	10	山間部	トタン(銀)	四方	6.0*	右	なし	東	四間取	詳細調査民家、天保14年、焼普請、元葺下し、山茅、
皆瀬	11	山間部	茅	―	―	―	―	北	―	納屋
久宗	1	山間部	トタン(銀)	四方	5.5*	左	なし	南東	四間取	築100年程、山茅・麦藁
久宗	2	山間部	トタン(銀)	四方	5.5*	左	なし	南東	―	
久宗	3	山間部	トタン(赤)	―	―	左	―	南	―	廃屋
久宗	4	山間部	トタン(青)	オブタ	―	左	なし	南	―	
久宗	5	山間部	トタン(茶)	四方	5.5*	右	なし	北東	四間取	120年前に移築、麦藁
牛ノ子尾	1	山間部	トタン(赤)	四方	4.5*	左	なし	南	四間取	築90年程、山茅・麦藁
横走	1	山間部	トタン(赤)	オブタ	4.5*	右	なし	西	―	
馬見尾	1	山間部	トタン(赤)	四方	6.5*	左	なし	東	―	
土橋ノ上	1	山間部	トタン(赤)	四方	6.5*	右	なし	北東	四間取	築7･80年程
木戸口	1	山間部	トタン(青)	四方	―	左	―	―	―	
旗見	1	段丘部	スレート	四方	4.5*	左	なし	南	―	
旗見	2	段丘部	トタン(赤)	四方	5.5*	左	なし	南	四間取	築100年程、山茅
旗見	3	段丘部	トタン(赤)	四方	8.0*	左	なし	南	六間取	「阿波の民家」
旗見	4	段丘部	トタン(赤)	四方	5.5*	左	なし	南	四間取	詳細調査民家、築100年程、山茅・麦藁、元葺下し、ヤマト天井
井上	1	段丘部	トタン(赤)	四方	5.0*	左	なし	東	四間取	麦藁、ヤマト天井
井上	2	段丘部	トタン(銀)	四方	6.5*	左	なし	東	―	
井上	3	段丘部	トタン(赤)	四方	5.0*	左	なし	南	―	
井上	4	段丘部	トタン(黒)	四方	5.0*	左	なし	南	四間取	築140年程
町	1	段丘部	トタン(茶)	四方	5.75*	左	なし	南	四間取	築200年程、麦藁
町	2	段丘部	トタン(錆)	四方	―	左	なし	南	―	
町	3	段丘部	トタン(赤)	四方	5.5*	左	なし	南	―	
町	4	段丘部	トタン(錆)	オブタ	―	―	―	東	―	納屋
町	5	段丘部	トタン(茶)	オブタ	5.0*	左	なし	南	―	

所在地	番号	地形	上　屋	下　屋	間口規模	勝手	玄関	主屋方位	間取り	ヒアリングなど
町	6	段丘部	トタン(銀)	四方	6.0*	左	なし	南	ー	
町	7	段丘部	トタン(錆)	四方	5.0*	左	なし	北	ー	
宮地	1	段丘部	トタン(赤)	四方	6.25*	左	なし	南	ー	
宮地	2	段丘部	トタン(赤)	ｵﾌﾞﾀ(三方)	5.5*	左	なし	南	ー	
東麦原	1	段丘部	トタン(赤)	四方	5.75*	左	なし	南	ー	
東麦原	2	段丘部	トタン(白)	四方	5.0*	左	なし	南	ー	
東麦原	3	段丘部	トタン(錆)	オブタ	2.5*	ー	ー	南	ー	納屋
麦原	1	段丘部	トタン(赤)	ｵﾌﾞﾀ(二方)	5.0*	右	なし	南	四間取	詳細調査民家、天保13年？、ヤマト天井、麦藁
麦原	2	段丘部	トタン(赤)	四方	6.0*	左	なし	南	ー	
麦原	3	段丘部	トタン(赤)	四方	6.0*	左	なし	南	ー	
建石	1	段丘部	トタン(赤)	四方	ー	左	なし	南	ー	
建石	2	段丘部	トタン(赤)	ー	ー	ー	ー	西	ー	
建石	3	段丘部	トタン(白)	ー	ー	ー	ー	南	ー	
建石	4	段丘部	トタン(赤)	四方	6.0*	左	なし	南	ー	
建石	5	段丘部	トタン(白)	四方	5.0*	左	なし	南	ー	
建石	6	段丘部	トタン(赤)	四方	5.25*	左	なし	南	ー	
建石	7	段丘部	トタン(白)	四方	6.0*	左	なし	南	ー	
建石	8	段丘部	トタン(赤)	ｵﾌﾞﾀ(二方)	ー	左	なし	西	ー	
建石	9	段丘部	トタン(錆)	オブタ	4.0*	左	なし	東	ー	
建石	10	段丘部	トタン(水)	オブタ	5.5*	左	なし	南	ー	
西ノ原	1	段丘部	トタン(黒)	四方	6.0*	左	なし	南	ー	
西ノ原	2	段丘部	トタン(錆)	ー	ー	左	なし	南	ー	
青木	1	段丘部	トタン(赤)	四方	5.0*	左	なし	南	四間取	大正12年築、麦藁
青木	2	段丘部	トタン(錆)	四方	5.0*	左	なし	南	ー	
祇園	1	段丘部	トタン(赤)	オブタ	4.0*	右	なし	南	ー	
祇園	2	段丘部	トタン(赤)	四方	5.0*	左	なし	南	ー	
祇園	3	段丘部	トタン(白)	四方	5.5*	左	なし	南	ー	
祇園	4	段丘部	トタン(錆)	ｵﾌﾞﾀ(二方)	4.0*	左	なし	南	ー	
祇園	5	段丘部	トタン(白)	ｵﾌﾞﾀ(三方)	5.0*	左	なし	南	ー	
祇園	6	段丘部	トタン(青)	オブタ	ー	ー	ー	ー	ー	
祇園	7	段丘部	トタン(赤)	四方	7.0*	左	なし	南	四間取	詳細調査民家、昭和18年築
天王原	1	段丘部	トタン(赤)	四方	4.0*	左	なし	南	ー	主屋あり
丸山	1	段丘部	トタン(赤)	ｵﾌﾞﾀ(二方)	4.75*	左	なし	南	ー	
古城	1	段丘部	トタン(錆)	四方	5.5*	左	なし	南	ー	
安楽寺	1	段丘部	トタン(錆)	オブタ	ー	ー	ー	ー	ー	調査不能
三島	1	平野部	トタン(銀)	オブタ	5.0*	左	なし	南	ー	
三島	2	平野部	トタン(赤)	四方	5.0*	左	なし	南	ー	
若宮	1	平野部	トタン(赤)	四方	7.5*	左	有	南	鍵座敷六間取	詳細調査民家、天保年間築、「阿波の民家」、玄関構え
若宮	2	平野部	トタン(赤)	四方	8.0*	左	なし	南	ー	
若宮	3	平野部	トタン(赤)	オブタ	6.0*	左	なし	南	ー	
若宮	4	平野部	トタン(ｻﾋﾞ)	四方	7.5*	左	なし	南	ー	
湯立	1	平野部	トタン(青)	四方	5.25*	左	なし	南	ー	
湯立	2	平野部	トタン(青)	オブタ	3.5*	右	なし	北	ー	
湯立	3	平野部	トタン(白)	四方	7.0*	左	なし	南	ー	
湯立	4	平野部	トタン(赤)	四方	7.5*	左	なし	南	ー	
川田	1	平野部	トタン(赤)	四方	5.0*	右	なし	南	その他(類型なし)	詳細調査民家、芳川彰正生家(旧山川町指定文化財)
川田	2	平野部	トタン(赤)	オブタ	6.0*	左	なし	南	ー	
川田	3	平野部	トタン(錆)	四方	5.5*	左	なし	南	ー	
貞田	1	平野部	トタン(灰)	四方	6.0*	左	なし	東	四間取	詳細調査民家、ヤマト天井、天保2年築、麦藁、藍寝床
貞田	2	平野部	トタン(赤)	オブタ	5.5*	左	なし	南	ー	
貞田	3	平野部	トタン(銀)	四方	7.0*	左	なし	南	ー	
貞田	4	平野部	トタン(水)	オブタ	6.5*	左	なし	南東	ー	
船戸	1	平野部	トタン(赤)	オブタ	3.5*	右	なし	北	ー	
船戸	2	平野部	トタン(緑)	四方	7.0*	左	なし	南	四間取	
忌部	1	平野部	トタン(赤)	四方	4.5*	左	なし	南	ー	
忌部	2	平野部	トタン(赤)	オブタ	6.0*	左	なし	南	ー	
忌部	3	平野部	トタン(赤)	ー	ー	ー	ー	南	ー	調査不能
忌部山	1	平野部	トタン(赤)	四方	3.0*	左	なし	東	二間取	築100年程
忌部山	2	平野部	トタン(赤)	四方	5.25*	左	なし	東	ー	
土橋	1	平野部	トタン(赤)	ー	ー	左	なし	東	ー	
土橋	2	平野部	トタン(赤)	オブタ	5.0*	左	なし	東	ー	
平山	1	平野部	トタン(青)	オブタ	ー	ー	ー	南	ー	
諏訪	1	平野部	トタン(赤)	四方	5.5*	左	なし	南	ー	
春日	1	平野部	トタン(水)	四方	6.0*	左	なし	南	ー	
八幡	1	平野部	トタン(赤)	四方	6.5*	左	なし	南	ー	
一里塚	1	平野部	トタン(赤)	オブタ	4.0*	左	なし	北	ー	
北島	1	平野部	トタン(赤)	オブタ	4.5*	左	なし	東	ー	
前川	1	平野部	トタン(赤)	四方	ー	左	なし	南	ー	
片岸	1	平野部	トタン(赤)	四方	7.0*	右	なし	東	喰違四間取	詳細調査民家、麦藁

1）屋敷構え

前述のように山川町の地形は平野部・段丘部・山間部の3つに分けることができる。平野部では，屋敷地は比較的広く，ほぼ整形であり，石垣を積み周囲の地盤面より高く造成しているところが多い。これは度々起きる洪水から家屋敷を守るためのものである。建物配置は主屋を屋敷地の北側に，納屋や蔵をその西側に配置し，南側には広い庭をとることが多い。段丘部においては，地形は平坦で平野部と変わらないが，洪水の害を受けることはないため，屋敷地全体を高くしない。建物配置は平野部と変わらない（**図4**）。また，山間部では，急な斜面を切り盛りし，谷側に石垣を積み等高線に沿って敷地を造成している。そのため，建物配置は主屋と付属屋が等高線に沿って細長く並ぶ（**図5**）。

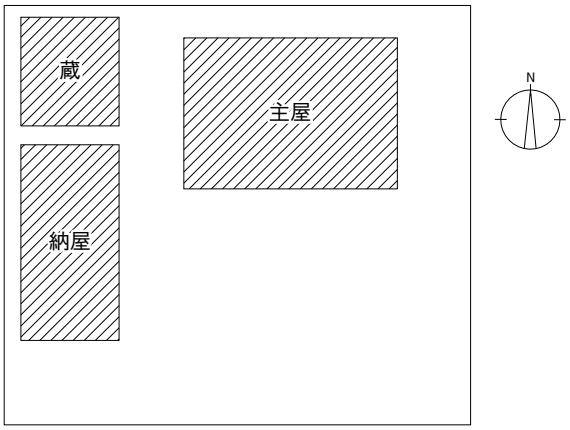

図4　平野部・段丘部　配置模式図

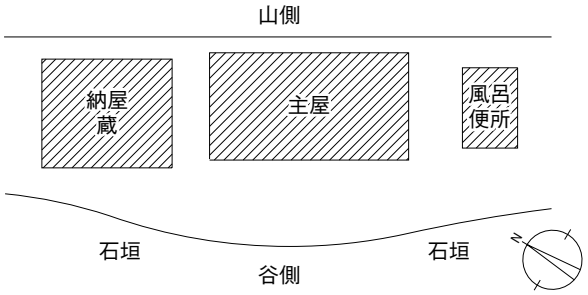

図5　山間部　配置模式図

2）建物規模（間口）

山川町全体でみると，建物の間口は五間から六間半の規模のものが約6割を占める。平野部においては小さいものから大きいものまで分布しているが，段丘部及び山間部では四間半から七間と規模のばらつきが少ない傾向がみられる（**図6**）。

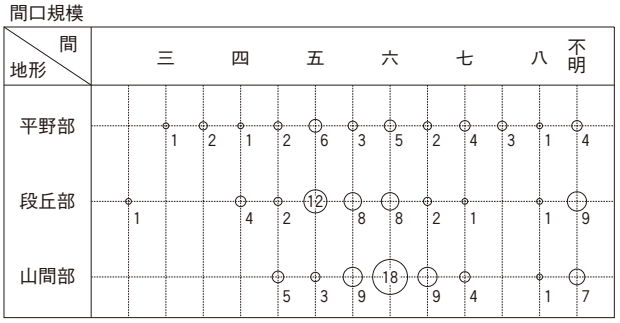

図6　地形別の間口の分布

3）主屋の方位

主屋の向きは平野部及び段丘部では圧倒的に南向きが多い。山間部では東向きが最も多く，南，南東が続く（**図7**）。平野部や段丘部では比較的広い敷地が確保できるため，南向きに建てることができるが，山間部では敷地の制約により谷側に向けて建てられることが多いためと考えられる。

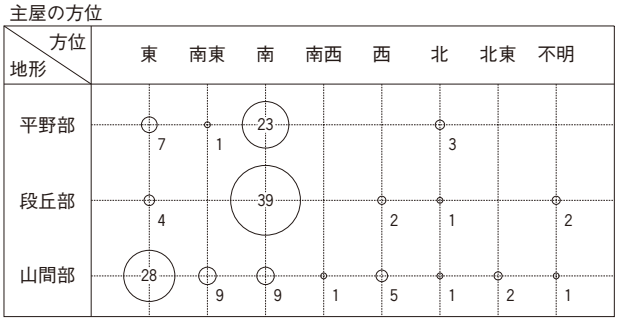

図7　地形別の主屋方位の分布

4）勝手

山川町全体で見ると右勝手が18%，左勝手が75%となっており左勝手が多い。地域別に見てみると，平野部と段丘部では左勝手が約80%と大半を占めるが，山間部では右勝手が34%，左勝手が62%となっている（**図8**）。

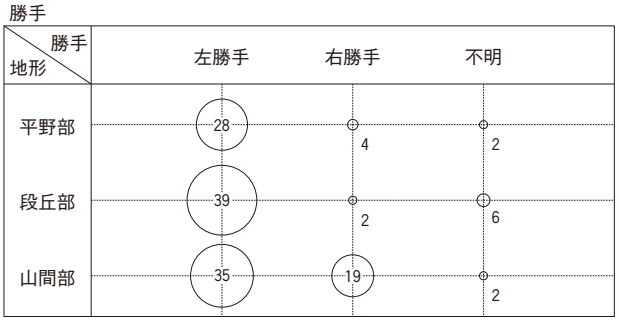

図8　地形別の勝手の分布

5）間取り

間取りが確認できたのは，ヒアリングも含めて全部で35棟で，二間取が２棟，中ネマ三間取が１棟，四間取が28棟，六間取が２棟，その他１棟であった。中ネマ三間取は，徳島県の山間部民家を代表する間取りの一つであるが，確認できた１件は，享保13年（1728）築であった。「阿波の民家」に報告されている４棟は，座敷３室が矩折りに配置される鍵座敷と呼ばれる形式で，建築年代は宝暦，天保，万延，明治と18C中頃以降である。また，平成13年に阿波のまちなみ研究会が調査した，皆瀬の元庄屋屋敷（**図9**）も玄関構えを持つ鍵座敷型六間取で，嘉永６年（1853）築である。本調査においては，鍵座敷型の間取りを確認できたのは「阿波の民家」にも報告されている，「若宮－１」１棟のみであったが，過去の記録とあわせて考えると，18C中以降には鍵座敷型の間取りが存在し，それ以前には中ネマ三間取も存在していたと考えられる。**図10**に山川町における主な間取りの模式図を示す。

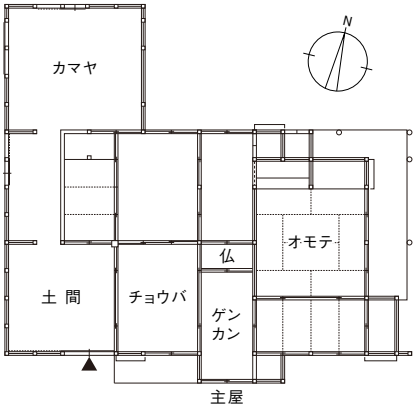

図９　元庄屋屋敷の間取り

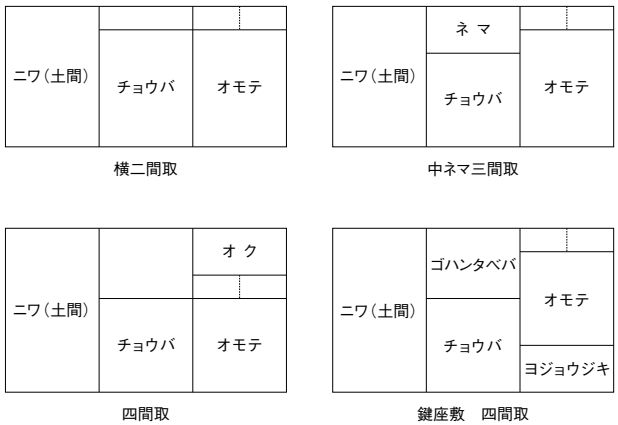

図10　山川町民家の間取り模式図

6）屋根及び小屋組み

屋根葺き材については，平野部や段丘部では麦藁（むぎわら），山間部では山茅（やまがや）が主に用いられ，両方使っている場合もあることがわかった。今回，祇園（ぎおん）で昭和18年築の茅葺き民家を確認することができたが，山川町では少なくともこの時期まで，茅葺きでも新築されていたことがわかる。また，茅葺きに下屋を廻すものがほとんどで，葺き下ろしのものは１棟だけで，非常に少なかった。ただ，聞き取りによると元々は葺き下ろしであったとの話もあることから，下屋を後から付けたものも多いと考えられる。

上屋梁の上に土を置いたものをヤマト天井と呼ぶが，詳細調査を行った11棟の内，10棟がヤマト天井であった。また，小屋組を確認できたものは全て叉（さ）首（す）構造で，小屋束を用いたものはみられなかった。（**図11**，**図12**）。

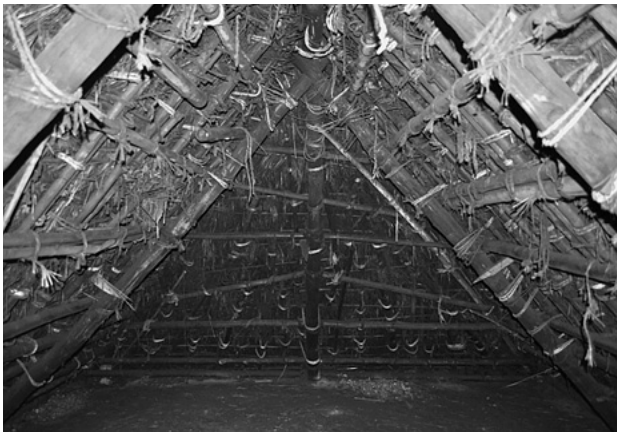

図11　小屋組み

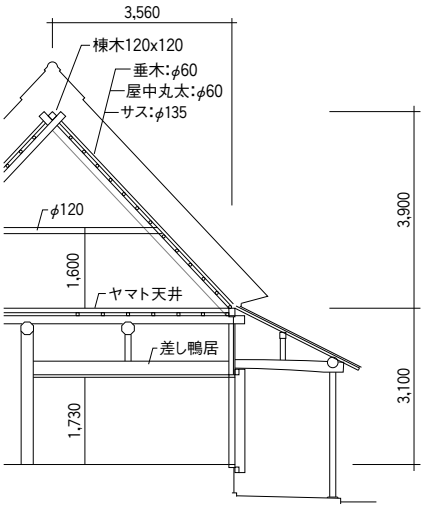

図12　断面図

３．詳細調査民家

１）榎谷－２（山間部）

当家は奥野井谷川沿いの西斜面に位置する。屋敷地は急な斜面を切り盛りして等高線に沿って細長くかつ湾曲して造成されている。南から車庫，納屋，主屋，離れと並ぶが（図13），昭和40年代に，車庫は畑だったところに，離れはキナヤがあったところに新しく建てたという。主屋（図14）の建築は棟札によると享保13年（1728）（図15）。現在の間取り（図16）は正面中央に玄関を設け座敷を６間としているが，聞き取りによると，元々は12帖のオモテを持つ中ネマ三間取（図17）である。また，小屋裏から確認できる既存柱間は５尺間（ごしゃくま）となっており（図18，19）祖谷や木屋平などでみられる19世紀中頃以前の古い時代の柱割りである。昭和30年頃まで煙草の生産をしていたためか，天井には土を置いていない。

図13　屋敷構え（航空写真）

図14　主屋外観（南西側）

図15　棟札

図19　梁組と小屋組み

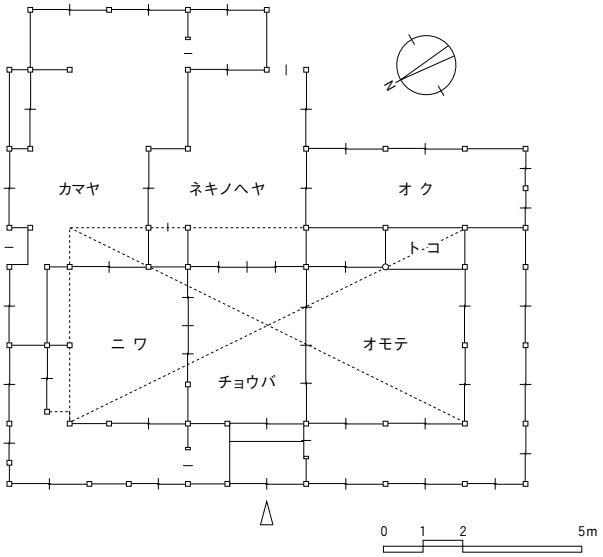

図16　現在の間取り

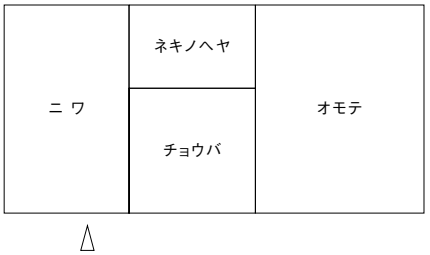

図17　元の間取り（聞き取り）

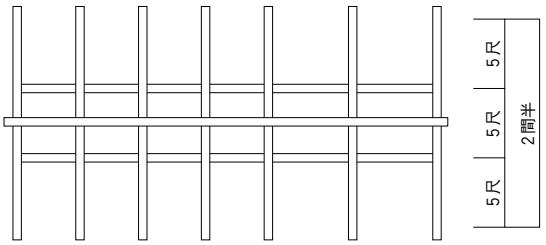

図18　上屋梁伏図

２）旗見－４（段丘部）

当家は川田川下流東岸の河岸段丘上の平地に位置する。南北に細長いほぼ整形な屋敷地の北側いっぱいに主屋（図20）が建つ。その南西には元々納屋があったという。現在はその位置に，昭和60年頃に建てられた２階建ての離れが建つ。

聞き取りによると，明治後期から大正初期に建て

られた建築である。主屋の間取りは，左勝手整形四間取である（**図21**）。現在は各部屋に天井が張られているが，ヤマト天井である。元々下屋は無く，葺き下ろしであったが，昭和40年代後半に茅葺き屋根にトタンを巻き，下屋をつけたという。

図20　主屋外観（東側）

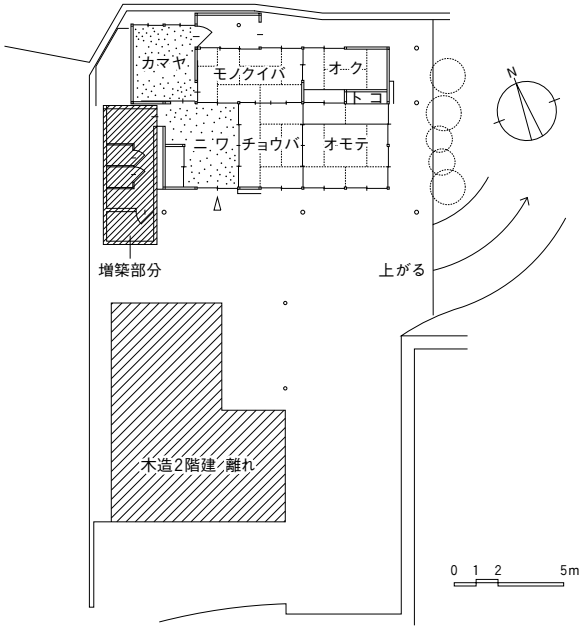

図21　配置・間取り

3）川田ー1（平野部）

吉野川市指定有形民俗文化財である。吉野川と川田川の合流する氾濫原に立地している。整形な屋敷地の北側に建設当初からといわれる榎の大木に挟まれるように建つ（**図22**）。建築年は棟札により文化6年（1809）である（**図23**）。

図23　棟札

現在の間取りは畳敷きの間を東西に3つ並べ，その北に下屋を出し，土間と板の間が並ぶ。畳敷きの間の南側には玄関と便所を構える（**図24**）。町が買収したときに少し改修されているとのことであるが，構造や間取りの変更はされていない。

基礎に石を積み，屋敷地盤より40cmほど高くし，床は屋敷地盤より1m程高くしている。この地域が氾濫原であることによる洪水への備えと考えられる。

図22　主屋外観（北側）

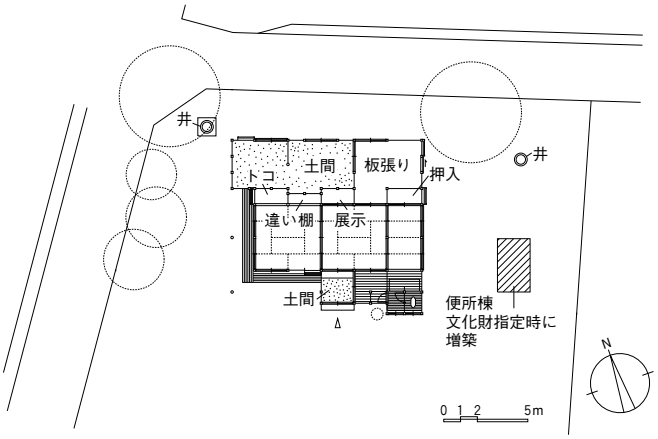

図24　配置・間取り

4）楠根地（くすねち）ー3（山間部）

高越山の麓，つづら折りの車道から少し登った東向きの傾斜地に位置する。等高線に沿った南北に細長い敷地に北から便所，納屋，蔵，主屋，ハナレ，キナヤが並ぶ。

当家は，稲田家より名字帯刀を許された五人組の組頭だったという。主屋は（**図25**），宝暦～明和年代（1751～1772）に建てたと伝えられ，楠根地地区では一番古いという。茅葺屋根にトタンを巻き，本瓦葺き下屋が3方に付く。間取りは右勝手四間取。南に便所の増築などの改造が見られる（**図26**）。オモテの間は長押が廻り，竿縁天井を張る，チョウバ

には大断面の差し鴨居が３方廻る（**図27**）。ヤマト天井で，カマドには囲炉裏があり小屋裏で蒟蒻を乾かしていたという。床組はオビキと呼ばれる虹梁で組まれている（**図28**）。建物の裏側は土塗りの大壁である。蔵は漆喰塗りに置屋根で，ハナレは二階建てで外壁に杉皮を張っている。

図25　主屋外観（南西側）

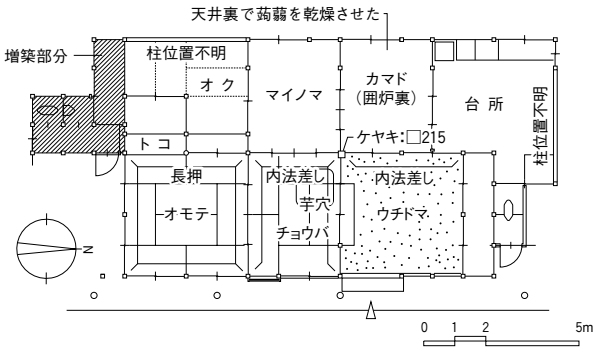

図26　間取り

図27　チョウバ内観

図28　床下のオビキ

５）麦原（むぎはら）－１（段丘部）

当家は，稲作を生業としてきた農家で，川田川東岸の段丘上の平野に位置する。ほぼ矩形の屋敷地は，南面及び東面が道路に面し，北東寄りに主屋が建つ。かつては西側に北から納屋と外便所が並んでいたという。天保13年（1842）の棟札を保存しているが，主屋のものか納屋のものかは判別できない。

主屋は南向きで，西側および北側の増築部分を除くと，右勝手整形四間取である（**図30**）。土間に面した２部屋のうち，奥の家族の食事の間を「カマヤ」と呼んでいるところが特徴的である。屋根は，平入り寄棟の茅葺で，現在はトタンを巻いている。南北2方向に，建築当初よりあったという下屋（オブタ）を伸ばしている（**図29**）。外壁はトタン，内壁は繊維壁または合板に覆われているが，かつてはともに荒壁の真壁造であったという。天井も現在は竿縁天井に覆われているが，その上にはヤマト天井を残している。

図29　主屋外観（南側）

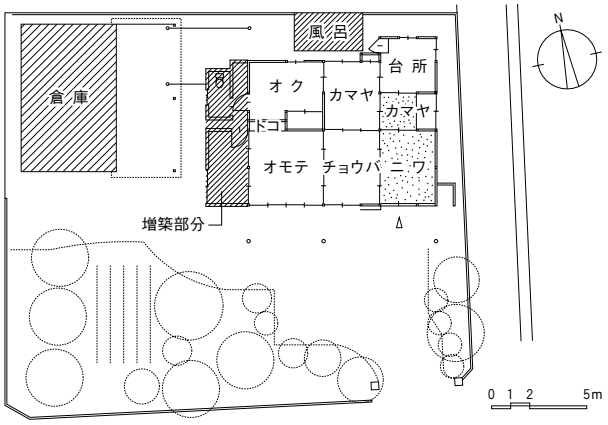

図30　配置・間取り

６）皆瀬ー10（山間部）

当家は皆瀬集落の南端に位置し，今回の調査の中では最南端である。急な坂道を上がった東斜面に位置する屋敷地は，斜面を切り盛りして等高線に沿って細長く造成されている。南から倉庫，主屋（**図31**），離れ（元牛舎）と並ぶ。聞き取りによると，昭和27年頃に下屋と台所を増築したという。また，南の倉庫のところには煙草の乾燥室と養蚕室があり，主屋に続いていたという。

主屋の建築は棟札（**図32**）によると天保14年（1843）。元々は間口六間，奥行三間半，間取りは右勝手四間取である（**図33**）。小屋裏は天井の上に土を置いている（**図34**）。主屋正面は下屋を増築する

時に茅葺きの軒鼻を切り，トタンで巻いているが，下屋の無い裏面では，葺きおろしの形態がそのまま残っている。外壁は土壁で，正面は下見板張りとして土壁の落ちるのを防いでいるのに対して，裏面では山が接近していて風当たりが弱いためか，土壁仕上げとしている。

図31　主屋外観（東側）

図32　棟札

図34　小屋裏

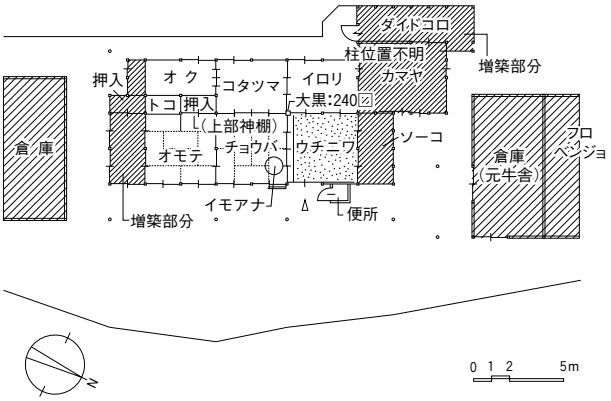

図33　配置・間取り

7）片岸ー1（平野部）

当家は高越山の麓の東斜面に位置する。屋敷地には，主屋（**図35**），茅葺き屋根の納屋，車庫などが建つ。茅葺きの納屋は，昭和54年（1979）まで主屋として利用されていた。主屋は右勝手四間取（**図36**）で，地形に合わせ東向きに建っている。間口６間と小間中，奥行四間，上屋梁間三間の下屋造りで，小屋組は叉首構造である。屋根は小麦で葺いていたが，昭和25年頃にトタンを巻いている。平野部の民家の特徴といえる，整形な四間取や切石の基礎が見られる。棟札などによる建築時期の特定はできなかった。

図35　主屋外観（南東側）

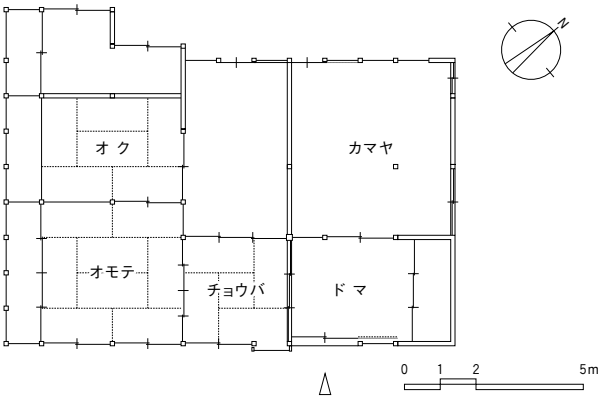

図36　間取り

8）若宮ー1（平野部）

当家は武家の系譜を引く家柄で，吉野川沿いの平野部に位置する。ほぼ整形の屋敷地の中央北寄りに主屋（**図37**）が，西側には，北から土蔵，納屋，倉庫が建つ（**図38**）。乾（北西）の位置に建つ土蔵は，洪水から大切な家財を守るために，石積み基礎により床を高くしている。

主屋は左勝手六間取でゲンカン構えを持つ。床ののある座敷が上手奥に位置し，座敷が矩折りに続く鍵座敷型の間取りは，木屋平の三木家や美郷の後藤田家など周辺の武家の系譜を引く家の間取りと共通している。また，勝手の位置，カマヤ部分を背面に突き出しているところなどは，吉野川下流部の藍作民家の特徴と共通する。構造は下屋造りで，小屋組

は叉首構造となっている。屋根にトタンを巻き，建具をアルミサッシに変更，外壁の荒壁の上に板を張った程度で，改造は少なく，創建当初の形を良く残している。

主屋の小屋裏から享保８年（1723）の棟札（**図39**）が見つかったが，「阿波の民家」によると鬼瓦には天保７年（1826）の銘があるとあり，二重梁の架構（**図40**）や材の状況などから，天保年間の建築と考えられる。

図37　主屋外観（南側）

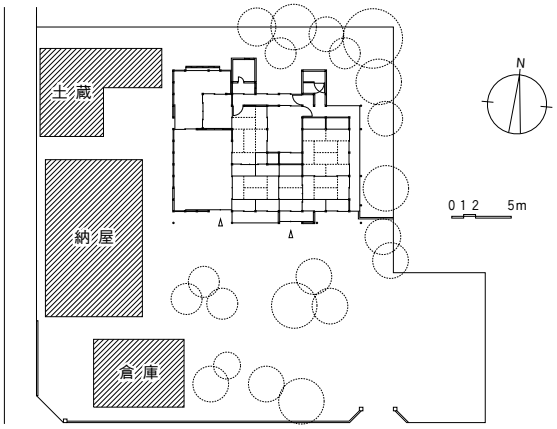

図38　配置・間取り

図39　棟札

図40　二重梁の架構

９）祇園－７（平野部）

当家は山川町の北東に位置し，川と山に挟まれた狭い平野部の山際にある。南向き左勝手整形四間取の主屋（**図41，42**）は茅葺きで，現在はトタンが巻かれている。小屋裏に棟札が残されており，昭和18年９月23日の建築と確認できた（**図43**）。小屋組には少し傷みがみられ，内外部とも改造の手が加えられている。

図41　主屋外観（南側）

図43　棟札

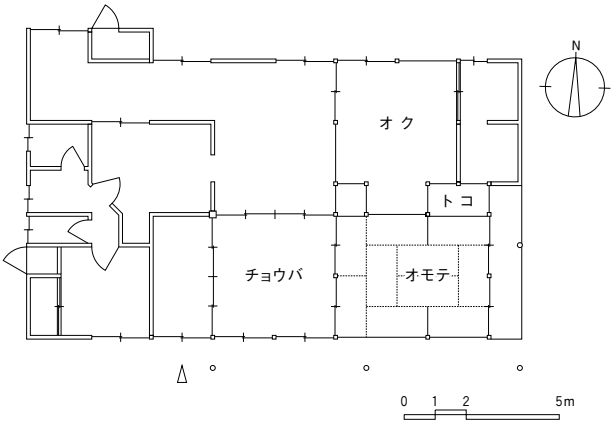

図42　間取り

10）貞田－１（平野部）

当家は山川町の西北に位置し，川と山に挟まれた狭い平野部にある。屋敷地はやや南北に細長く，東向き主屋（**図44**）が中央部西寄りにあり，その北側に土蔵と藍寝床が並ぶ（**図45**）。主屋は左勝手の整形四間取で，建築年は棟札（**図46**）によると天保２年（1831）。棟札は棟木の裏ではなく，小屋組の途中に置いてあった。藍寝床には嘉永年間（1848－1853）の棟札があったという。トタンの下には麦藁を葺いており，ヤマト天井である。主屋の主要部分は改造されておらず，下屋は昔からついていたという。イモブロは１ヶ所，オクドが２～３あり，囲炉裏はなかった。かつて藍作，養蚕をしていたという。

図46　棟札

図44　主屋外観（北東側）

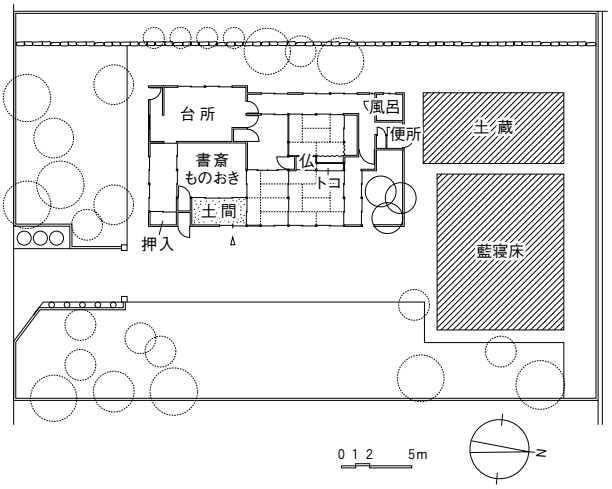

図45　配置・間取り

11）向坂ー３（山間部）

当家は山川町の山間部に位置し，南北に細長い敷地内には北から蔵，主屋（図47），倉庫と並ぶ（図48）。主屋は左勝手四間取，間口六間，奥行三間半，西面のみ葺下しで３方下屋を廻している。屋根は小麦殻で葺いており，昭和22年頃に葺き替えた後，トタンを巻いている。かつては小麦殻を天井に上げて保管していた。葺き替えは，２方ずつ10～15年毎に行い，職人４，５人と集落から５軒くらいが集まって手伝っていたという。小屋組は叉首構造，ヤマト天井の下に昭和40年頃に天井が貼られている。主屋の建築年代は棟札により文政10年（1827）である。建物前面中央の下屋部分（幅二間分）が内部化（チョウバ）され，ゲンカン構えのように拡張されている点が特徴的である。かつては藍作や養蚕を行っていたというが，現在は住んでおらず，農作物の保管に利用している。

図47　主屋外観（南側）

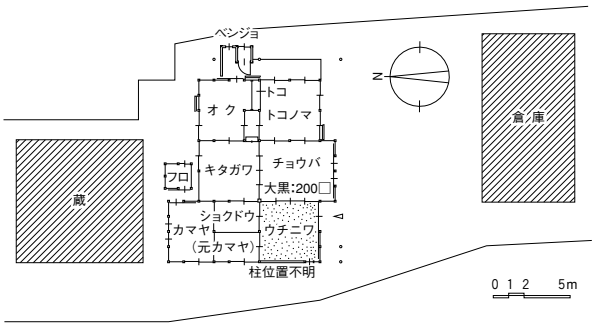

図48　配置・間取り

５．おわりに

最後になりましたが，本調査に際して快くご協力いただいた，住民の皆様をはじめ関係者の皆様に，深く感謝申し上げます。

文献

奈良国立文化研究所・徳島県教育委員会編（1976）：『阿波の民家』

山川町史編集委員会（1987）：『山川町史』

㈳徳島県建築士会阿波のまちなみ研究会編（2010）：『徳島の文化財【建造物】』

㈳徳島県建築士会阿波のまちなみ研究会編（2010）：『貞光・山川町茅葺き民家実態調査報告書』

㈳徳島県建築士会阿波のまちなみ研究会編（2000）：『庄屋屋敷「住友家」現況調査報告書』

Traditional houses of Yamakawa Cho in Yoshinogawa City, Tokushima, Japan.

ODA Marino, KAMAKURA Kazutoshi, KITA Junzou, SATOU Hiromi, SUEKUNI Akihiro, TAKATA Tetsuo, TANINAKA Toshihiro, TAMURA Eiji, NASU Yukio, HAYASHI Shigeki, HIROTA Kazumasa, FUKUDA Yorihito, RYONO Sohei,

Proceedings of Awagakkai, No.58（2012）, pp.107－118.